

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービス ココアート				公表日	令和8年 3月26日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7		定員10名に対し、十分な広さを確保している。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7		適切な人員を配置している。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7		利用者の特性に応じ、掲示物はできる限り少なくし、落ち着いて過ごせる環境を確保している。食事スペースや行動範囲のテーブルなど、タオル掛けにも工夫がある。静・動の活動範囲がしっかりと分かれていて活動しやすくなっている。	トイレの入り口のみバリアフリーではない。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7		毎日清掃、消毒を行い、清潔さを保つことに務めている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	1		現在対象児童はいないが、必要な場合、安全に配慮した区画を用意する。(スペースは有り)	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7		個別の具体的な目標を決め、それを実行する努力をしている。	全体会議にて、職員が話し合い、評価する。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		職員会議にて保護者の意見を共有し、改善点を話し合っている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		職員会議にて情報の共有と意見の把握をしている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		7		第三者評価を受け、改善点を探る事を検討していく。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7		自治体主催研修の利用、OJT研修を実施。		
適	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7		ホームページにて公開している。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7		半年に一回アセスメントを行うことで、希望する生活に基づいた計画作成を行っている。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		職員会議にて情報共有を徹底。課題を組織として共有し、職員の意見を拾い上げている。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7		個別の支援内容を共有している。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7				
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7		本人支援、家族支援に重点を置き、園及び相談事業所と連携を図りながら、支援内容を検討している。		

切 な 支 援 の 提 供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7		それぞれ意見を出し合い、当日の利用者に合わせた活動が行えるようにしている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		土、祝日、長期休暇の外出は、それぞれの集団行動の課題についての支援目的の為、行先が固定化されないよう工夫している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7		集団活動を円滑に行うための個々の課題に沿った、計画を作成支援している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7		前日に打ち合わせした内容を、当日朝役割分担を再確認し、連携して支援を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7		スタッフミーティング及び、支援記録作成により、情報共有している。	掲示、LINE等をより活用し、情報共有を徹底していく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善に努めているか。	7		支援記録の作成を徹底し、支援の検証・改善に努めている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		半年に一度利用者様とモニタリングを行い、個々の成長に合わせて、支援計画の見直しを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	7		複数の基本活動を組み合わせ合わせた総合的な支援を行っている。	地域交流の機会の提供に努力していきます。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7			
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7		管理者が参加。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7		学校送迎時に担任教諭からの聞き取り、保護者との連絡調整を行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7		契約時にそれまでの成育歴や支援内容を確認している。	必要があれば、保護者の了解の上、関係機関に連絡を取り、情報共有に努めたい。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	7			その機会があれば情報共有を積極的に行う。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	7			
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	7			地域行事に参加する事で、交流することを務めていきたい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	7			
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		定期的に訪問又は事業所にて保護者支援を行い、日々の情報共有については、支援ソフト及び、送迎時に行っている。	
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	2			
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7		利用契約時に説明を行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7		支援計画を保護者に説明、理解を頂き、同意を得ている。	

保護者への説明等	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7		個別支援計画作成時に説明を行い、書面により同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		保護者のニーズを的確に判断しアドバイスできるように努めている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	3	4		保護者どうしの交流する機会を設ける事ができる様、検討しております。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7		苦情責任者を設置して対応している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	7		オンライン支援ソフトを活用して連絡体制の強化及び、支援の結果を日々報告している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7		十分留意している。	職員の世代が違えば、受け取り方も異なるため、より具体例を出しながら、注意していきたい。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	3		今後、地域の行事等に参加していき、交流を深めていきたい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7		各マニュアルは策定済みで各々研修・訓練を行っている。	訓練内容も保護者様に周知できるよう努めていきたい。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7		策定済みであり、研修・訓練を行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	7		利用契約時に確認している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7		利用契約時に確認している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7		安全計画策定を行い、訓練・研修をおこなっている。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7		記録を作成、職員会議による情報共有を徹底している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		職員全員が参加できるよう、研修を適宜開催している。	自治体主催研修の動画配信をもっと有効に活用していきたい。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7			自治体主催研修の動画配信をもっと有効に活用していきたい。	